

各種ワクチン接種について

ちとせクリニック（2024年8月作成）

・帯状疱疹ワクチン

帯状疱疹は水ぼうそうと同じウイルスが原因で起こる皮膚の病気で、体の左右どちらかの神経に沿って、痛みを伴う赤い発疹と水ぶくれが多数集まり帯状に生じ、重症の場合は入院を要することもあります。50歳代から罹患者が増え、ピークは70歳代と言われています。発症、重症化しないための選択肢の一つとして、50歳以上の方は予防接種を受けることができます。また、以前発症した人でも、体の免疫力が低下すると再発する場合もあるので、帯状疱疹にかかったことがある人の再発予防としても、予防接種は有効です。ワクチンは下記2種類から選べます。どちらのワクチンでも接種可能であれば、当院では医学的に高い効果を期待できるシングリックスをお勧めしています。迷われた場合には、一度、担当医師にご相談ください。（*予防接種は帯状疱疹を完全に防ぐものではありません）

〈参考〉 2つのワクチンの比較

ワクチン名	シングリックス	ビケン
ワクチンの種類	不活化ワクチン	生ワクチン
費用（税込）	22,440円 (世田谷区の助成ありで12,440円)	8,800円 (世田谷区の助成ありで4,800円)
対象者	50歳以上の方	50歳以上の方
接種回数	2回 (2ヶ月以上の間隔を置いて6ヶ月後までに)	1回
接種方法	筋肉注射	皮下注射
接種1年後の持続性	97.7%	38%
接種7年後の持続性	83.3%	21%
長所	<ul style="list-style-type: none">・ 比較的予防効果が高い・ 効果持続期間が長い・ 免疫低下の方にも接種できる	<ul style="list-style-type: none">・ 1回の摂取で済む・ 料金が安い
短所	<ul style="list-style-type: none">・ 料金が安い・ 痛みが強い（筋肉注射）・ 2回接種が必要	<ul style="list-style-type: none">・ 効果持続期間が短い・ 免疫低下の方は接種できない

◆ビケンは生ワクチンのため、免疫不全の方や、免疫を抑える薬（ステロイドや免疫抑制剤など）を飲んでいらっしゃる方には接種できません。不活化ワクチンであるシングリックスは、比較的安全に接種できます。

◆ご不明な点がございましたら、お気軽にご相談ください

参考：2023(令和5)年11月9日発行 厚生労働省「帯状疱疹ワクチンについて」

・肺炎球菌ワクチン

肺炎球菌感染症は、肺炎球菌という細菌が感染することで起こる感染症のことで、肺炎のほかに菌血症や敗血症、髄膜炎など重篤な症状を引き起こすことがあります。

肺炎球菌ワクチンは65歳以上の方や、心筋梗塞や狭心症などの心臓の病気、喘息やCOPDなどの呼吸器の病気、糖尿病、腎臓の病気などの持病を持っている方、脾臓摘出を受けた方などにも推奨されています。

大きく2種類ありますが、ニューモバックスは世田谷区の定期接種に含まれており、65歳以上の方全員にお勧めしています。

(*肺炎球菌感染症の予防接種は、すべての肺炎を防ぐものではありません。)

ワクチン名	ニューモバックス (PPSV23)	プレベナー (PCV13)
ワクチンの種類	不活化ワクチン	不活化ワクチン
費用 (税込)	9,900円/1回あたり 世田谷区の定期接種では1,500円(初回のみ) *脾臓を摘出した方への接種は保険適用	11,000円
対象者	【世田谷区が行う定期接種の場合】 世田谷区の費用助成の有無に関わらず、過去に1回も接種を受けたことがない方で、次の①または②に該当する方 ① 65歳の方 ② 60~64歳で、心臓、腎臓、呼吸器、免疫の機能に障害がある方(身体障害者手帳1級相当)	【任意接種の場合】 5歳以上の全年齢
接種回数	5年以上の間を空けて繰り返し接種可能	1回
接種方法	筋肉注射(または皮下注射)	筋肉注射

肺炎球菌ワクチンについては厚生労働省のこちらのページもご参照ください。

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001086212.pdf>

・インフルエンザワクチン

定期訪問させて頂いている患者さん、およびそのご家族に接種できますので、ご希望の方はお申し出ください。なお、自治体によっては助成を受けられない場合もあります(自費での接種は可能です)。

・コロナワクチン

全額公費(無料)による接種は、令和6年3月31日で終了しました。今後の方針が決まり次第、ご案内いたします。